連歌
枕數帳
雜
伊地知文庫
文庫20
36

養宗養
巴巴紀
仍仍去
孫孫曷
化化曷
前芳ん
育育去
白

伊地知氏書冊

ふうさんの人々と物語
一さしいわ一流おしへよ渡川養
わ生成西乃ちまちまき
渡川わ家そとりてわ一そ巴
ゆく扨ゑん出ふ小車
ちるちゝんわちゝ向りて仍
右乃馬場すとうん袖
ひのゑんゆるむりし氏車受ゆる孫
改ちゝふ計の袖ゆけもて
見ゆや ちゝ車一仍

捨たく涙ら[illegible]
当初ら[illegible]
[illegible]
天地のそこめと[illegible]
未うすへ[illegible]
て浮世と[illegible]
そうし[illegible]
かいま[illegible]
涙とく[illegible]
搦そめて[illegible]
思ひもな[illegible]
世間とあ[illegible]
あるみう[illegible]
[illegible]

そうさいやし[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しらぬ人のそこ
ぬやすしらわらをのなひ
おこそこぬ人ぬ
物やこしふけ
雅のふそのこ
そこわつもそ
朝ノ浪や袖ノ物
うもこ尾と人の
我のこ袖ノ
雅のふけもそ
美ノ人こ
雅面ノ
酬と
雅のよ雅のか

あこ我のそこ
雅のよ思ひ
偽とこ
雅のや人の
あこ
雅のし
初
雅の
物
へ
あふ人
雅のし
わこ
雅の

こゝろしく娘しおむ恋の床
菱さへや雛の入りおし娘なん　花
うきみ命乃かぎりはなれて
さまざまの雛をさし拵や海まで　分
あの世でも行しめ生れおはなし
一筆ひつさげてゐ娘ゆかく　比
かゝるまゝ生れおちはてや衣
さへ人はとりて娘もなく見ん　也
思ひまゝし身の行末しるや
捨ておとおもしく娘さへのおもや　比
おもひきれぬまでは花としれ
生まれおの行末まをもやいと哀れん　也
木乃実乃もぎりはてをやむとうめ
流るゝともまうきはおもれ花　花

ゆらく見た兄とは花の衣はなせども
あなしく入りまけん流れなさる　也
へ雛をゆかり絶ゆべき命
うきなかし寂みのゆかりを望ま　同
よむ哥よ舞娘つらきを道
命乃あるかぎりおもきとまり　琢
此のこや雛も女をも換して心よ
あひみて先見の命なかりけり　花
ありきもそぞろ夕さもなし
あまりくと花よ心をおさへ帝　也
何とんのすみひとは世をも
あまりきのいのちも命　同
月はしらぬきさのさと思ふて
あはれ消えし命とよ夕ゆや　琢

日数のうさとなりぬるかな　同

あかつきのかたへ雲井をいでし月
おもてうらかさしあらはれぬ　仍

あふことのかなしうたのもの命
おもひうらみてなくらん　同

おもひをおもひとなりぬるかな
うきをおもひかむしの涙かな　仍

袖やとなりぬるかな
雲井うしろ月ちとなりぬ　同

命ふる雨をあやまるる
わをふるうきをおもふ身と月をぬれ　同

おもひわやまれとのとの未
仍とのこうへのはちさせ　仍

付ちあ雲ちさみをひて
ぬれてつゆかくすまとうき　同

なりあをおもひ
抜さへうくあのの波川　仍

さ道のうちひろさ独寝
なるこ海となりをうを抜　仍

はへあの秋の涙
うをの秋の涙　同

とのあ月ちうし
夜の涙や付あん　同

うさへさ加をあさ巻
涙をなるさ　同

七月さ美乃さ暁
あなさを涙みくもる月秋　仍

うあをうらをとの
わう涙をなれ鳥をへうし　同

我身ひとつはなれ秋やうるおれ
袖の露をひろひてなつかしき津鳥
ゆめまぼろしなる涙の人をとゝや
悪瘦せる身はそもうかれ成もしら地
なみまくまへさき渡うるおい
愛しゆる世の例をかなしき哀
うるさ染とそのむれ赤
富士の根に焼と身の思ひ也
使さへ尋さつるはこうきん
たつもとなるさみとへやてるそ地
あひみつゝうとくそのふる哀
あひもなすはなるゝ舟まとゝ同
たつる涙もつくそうひそ
なるはあるはあるとあひもあ

人間よりふるうとむ哀
思ふあるうもんはよりあ地也
ゆうしは月みとうはとうはあ
そなるはもとあはもこあわ同
笛竹の夜一ふるはあらん
なるはあるはあるはあるの哀
元昌は哀さそなる相像也
扇うは秋の哀うは哀
よしやあはは地の奥はあるは
なるれて袖うはうはあ妹背川哀
一筋はこの世のあるはちうひ哀
せさはうめしこの渡川旨
抱もさるみ河風の吉
浦の月はあ浦渡のそなん也

庁殿の松のこれこそ
さ延たちつゝ袖は河なれ　右
ゆきせつる行ゆく久しきを松の
渡のこそ老て床乃海なれ　同
光ゆゑ磯なる袖の滝津瀬　右
人をこゝろ
見ひとりの衣　麻衣
渡さへこそ行そ袖の露　仍
そのゝ秋なる
袖の露ゆゑ
紅葉こそ
紅葉こそ
そのゝそのゝ渡川　也
ゆくや松の葉ゆうさ橋
衣乃上ゆこゝ渡川　也

うさ命ゆうさ
あつせゆうゆ
庭乃ゆ
露やゆ
うゝ
身ゆ
松乃
身ゆ
渡そ
ゆ
そ
そ
そ
ひ
ひ

うらとけぬるしるしとやいはん
あさましうらの海人の釣よりいはんかたなし 壱
いはけなくとりなさぬ袖をぬらすなり
人の心をもとめもとめしるし 同
いひしらかなしてひらかれ何
ゆくもゆくもなみのうへにうきしるしなし 同
もとめあまをとめ海人乃うらこそ
さとりそのゆうりとそまよそなりもち
うらなみたちなこのたちなき
なかなそのあらはもむかりを 也
涙をさそはようはあもうけ
おもふそのゆうりとそなむはまを 壱
ゆうしおさ海藻を苅俗
なかしあそうとふ風よいさなへ 也

数俗る松乃上は西蔵く
うきみをとるあまつうらぬ人 壱
るをとこ海うみうとあかうひ
嫁を尺うつくさをかうへてよ 同
身は絶うくうらは時や物
嫁はさ人海をうあのこ 有
一回はは色しもしてすも
嫁乃るはきはちと恨もや 也
人そうへていとのこれ女
嫁をいつまもいはせん 仍
おそをの絶ひとそひとそ恨也
之嫁をすようもをすれ 壱
人をのめすうう思ひそうるや
仕さへつうさ心よはつのしく 也

いひさけうるこゑもかすかに聞てし
数ならぬ身は使ふまいやめく孫
関むかひしてやうちつまし袖
頼こんわ泡乃使なる也仍
とけて見れば清なる涙の穂
人偽みくしうきと云やも也
かやもうたらいつかこそ
人偽らしなめさこと成ひは同
夕や鶴みなとれもん
あふつる汐篠の陰と思ひ絶也
むかうすきかしたの秋
風の音虫の声も思ひ絶者
うきしに朝そと身や成ん
思ふべきとしあるこさ乃を同

拾乃産や又も泣そうん
思ひ出人寄しつゝ袖乃海者
雨まさり千鳥滝津水と
流くこし袖の渡をいうせん也
歎乃末ら之ゝ加ゝ
思こ命しに成こう花瘦也
そそそる車しあやし使
思ふるこゝ乃馬場元育也同
拾しとゝ成ふ孫の思ひ
悲敬んの孫さしい法ゆく者
法せこなる乃小車
なりもの哀ふ思ふる安うこと孫
こゝる思こいとこゝ袖
思ふ身ら人目みうさ法ゆく也

ゆかしと袖にこそ人の御運なれ
むかし男は家まで思ひかや　也
二たびけるおちさか見身や
うつすとも思ふ力抱ともれ髪　同
思ひそめしいれなひよつりし
あさ月みかにも思ひきり移して　右
人拾れば手のこゑけさ人事
思ふ家に流てふ宿とは書通　也
ほとゝぎすねんのふかくも成すみて
つむ肢とおとなしの滝　春
なや闇さ月かきしいそまうさ
流ちめ家思ひやのとかに見海　お
流くそんのまにに道あらん
思ふなしひれ中かれむ章　春
心乃月もいかに入てさこそおもひ
思ふ乃文とて海さかと見えたり　春
使さへあさうち人にはなしひかれて
我こともさ文乃あやしさ　孫
うき思ひ書すれぬ人にはなかなか
手も墨つきもあやしき章　也
中々に夜に更けり宮乃灯　同
こりとの人乃書章巻あし
海ふみんやおもひつらん
書居るしあまり家に根の宿れ跡　有
おしりもと見えてぬ袖とくて
あさらしもかく物乃こゑ聲　也
本宋なれ志のひめ家中
一筆に思ふ心をおもひしまて　比

ちくさのなかにいとけなき中
秋のうらみをとどめてもなを
なをこころとなせるうき花
ほのぼの硯の墨よりかくもの
海の松をいかにかなしく
硯さへ命はかなくなるなき同
なりにあらんと言葉をかけて
松をそるる宿はしるしなる女
三瀬川やなみまもなく渡守
市の小りなのうまさにさへ類
ゆるしもさめぬるとうさ
さるものの中のひとり侍る同
たらうへ今月菊やを加へ
もらはれたるとどこ侍へ也

禅へ行へしやうへ
同て神の方を清也し岩
そちらうたるさきへの袖
ぞ里の紙袋をうれさ蓮花
塩さすむ宿の未ぶにうる也
とぞ里の扇はまつる物の書也
もくとみ歳月四四
ぞ里の宿乃むを乃月面
ちうしは神をかつることの
同をの乃方乃方成吉浦かさ也
夜のさなまの偽のふる
むを奥つのふに海と鶴しる面
ともすまく渡をなるこせを
見ぬもかちてるまもまた岩

渡ハいとをろくなりて
萩の葉も露をもたれ枝もたわゝに
ちるやうもなき風の音なき夕
人をのめりの萩の葉の葉ハ也
渡なれ波ゝりふるさ庵の上
とゝ人ハいりよ萩の葉ハ所ハ
月みてうゝくそのとゝれ
萩ハ葉ハ葉ハ葉ハ渡とゝ渡人 同
なゝ人ハ月の舟よりゆるゝ比
萩のとゝれもせぬ葉も渡あく也
月ちりかゝるかゝるもやハ
葉ハくりくのちる萩の葉ハ也
思ふうゝまハいとうゝのゝ
たゝむへき日数とゝ萩葉ハ也

そゝく庵ハとゝあやし也
侍ハ三年ハとゝ思へゝ所
侍せその根ハ数ハ明り
そのゝとそこゝ夕暮ハ滝也
立やゝひて志賀ハ国ハ
葉ゝ侍とゝ葉ハ日
夕といへゝ物せうゝ也
入相ハ加てゝ夏ハ也
侍とゝ比ハ侍ハ
命ゝとハ夕ゝハ告ゝ人也
侍まゝに六ゝ雪ハ
とゝゝやとゝゝハゝ月
出ゝ月ハ月ハ
下ゝ葉ハ所ハ入所

吹くうらの秋風乃声
笛竹乃声も月よ待うら見
ゆくまちうさ曉ぬ後
むくハ物うのこのこ待ぬく月
ふるとり秋ぎとふ流らさ秋霧
待ぬ月ふ月ふ人ふ重うる白
雲冷しく拾ぬ戸乃月
ふくく庵園へ入ると待ぬらし也
思ふつくわひら健きく
中まてくわ夜乃月と夕ぬ表
むすぬ松と出ひれむみうと人
待ふうしての渡わひしとお
思ひ流ふるん表て思家ぬ
来ぬとれいひくふうん秋風表

四ぬ乃ら門乃屋そしひ
ふうまくふ月と人月と待ぬ
奥よおしくやあ小車ふら
待人ぬむうへむれくぬ来て也
拾ぬらの床をせそ記
問くやと延れなくぬ鳴ぬく也
ふぬ表の月乃人おと
乗ぬ待むすぬ記さ延ま也
ぬまふ流の船ぬ渡ぬく
待ぬむすぬ記表ま乃橋表也
表ぬ紙流ぬらうよ表ぬ
待夜むすぬ記さ延乃表お
うさぬそわふるとさうく
ふものめこしくもやさ流の夕表

行よりつゝかくしてこの月
せゝらぎくさ〻ゆるやとりもせ也
屋わかるゝ家のさむしろ片敷て
妻人いとふかなしきそてやぬ也
そもゝぎと行衣に胸さはゝく
衾しも月みうらき西乃もも也
関乃戸ゝ風ゝ冷し
あちきなく人のものうき青月 同
明かと出る浦ひくくなり
月ゝ西ゝ思ひ出ゝよとかゝふるく 岩
暁乃起ゝ〻ゝ目まわりて
おもひそゝのさ遠出月 也
涙ふひゝうん〻ゝ事 北心
そのむ家ゝ家ゝ月光 岩

宿ゝ〻ゝ乃浦の苫のくゝ
衾波乃人ゝ寝よとの月ゝく 岩
幾度ゝ起て小寝ゝ来ぬ夏
人ゝ〻ゝよつゝ〻のくゝの月 同
ゝゝゝゝ〻ゝ津ゝつゝ〻ゝ
独寝月ゝ家ゝ衣ゝ〻ゝ 也
ゝゝゝ来ゝよつゝ〻ゝ 也
人ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ 岩
今ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
とゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ 也
秋のゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
月ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ 方
渡ゝ月ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
萩ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ 同

あやなく衣かへりかへし笛竹
きゝもとおもすかなる夜は也　巴
灯抑消るの後は物さびし
とふねに文ふ園乃さむしろ　台
涙も袖にかゝるをみせまうく
とりしの文とさへひく巻也　安
夕乃拍子との露けさ
そのましらら筆ては新郷　巴
あたらたるの一かたはうしく
かのうちも蓋ける只は漉切ぬく　同
似さしとおもふ物かしまうれ　巴
よそのちきりにはれてせやは
まて三日したそか時のおもくさ　右
何くやとたまへはたゝれのおもてかり　同
来ぬ人はからまちかねてひつく
お淀んそふせめく歴まん　巴
あくぬ桁は何ことゝもそかれ
嘉代てよその便れおとろさ　同
おもかけや流ま鉄とらぬ乃
おもひろしきとらむまいとふ　同
月さやかなる月や暁
魚うめくよその世さと稀らに　仍
只は哉うつのまてくなりきり
木の葉もくすまそれ声さと替鶯　安
みるかとし膝さ枕さくう
よその加へさむ人の恋代　巴
膝乃絹枕や涙さらん
くれの久さ乃されもとむる　同

例なるねの所はとてうかの
そまさうのさうの紅葉かよ也
しのむしのひとおもふるさと
生るとてさふあやを浦なる波也
うさるうさるうらの底しの庭まみ
きけしえさしぬさうりかりも也
僧とうね文はの灯をうたり
さうあるふ夜ハ夜て波のと也
さうみ波乃西とふるふ書
さうあるこの中ハ所ふく同
かさしさ僧るうあるやうとさ
さうあるうあるとなるとたなと也
なひとなるとうるふ
さふまとうあるふ也

あるくしし消ぬ命いうやう
うさうしいてしけりてとてや也
ふるくやるる思ひそるよせ
ふとそハけてもあるうあるる同
月花ひとうとい紅葉ハ
四ハ東ハ世ともつつかるる仍
幸もゆる忘ふ物なるや
とふくるや面そよるるる也
思ふとんとるるるかな
月まとハんいるやとハ也
そそふるる波れ面ひとうな
あるとかるうまよりるる袖
袴ひつくなるるてるる
四やうんるやるん々々書也

人給はりけひとつ
武蔵うき関もあるなるとく 孤
雑子身ちゝ新屋中家
苔はなれ思ひあり
めくまかうさ地
小車は思ふあるとり 同
京のねと思ひあるさ三海
あはまようをひとく 同
思ひとくさあるとり
きるくすふ人ちとと三門のち 也
苔りたはをとと俗つく
きるくする人ハたくれ門のち 也
ふをそあつしたをとうさち
きるくあ思ふあるとあ 拾 同

思ふあをとはたすゆ袖
きるくせん人をかやと詠俗く 也
むゆ乃乃の素きとやをくく人
人同はさうときるくする門 也
いはうるくん袖のり末
家耳は思ひくく戸くて 也
をとはなれ末いて也
思ふあるとり ふるさ家ハ 老
ひるうるいう方をく
思ひるあるうも宝戸くく 仍
をりひるをくん
思ひる家乃史氣加をるまく 也
思ひる国は戸をハるを
人をくくはいひるを中 也

人言の立はまうかと行俗て
戸口うるもるやいあやしいと也
こゝ人はきうんとまもせ
製盃持戸口を思ふ業ま 同
をしてしきつかうこうる
をくく業をうを人ふをさをく 同
ゆをかしひしをさうもゆく
あくうるハ業あるをふをさまも 同
あるをふをひをうりゆ業を
ををおのをとかをと物あ 同
屋をこをきををかをとう
物をしをあるを製ハ物をし 同
物ををあるををををををを 同

あるをくさ乃渡うるをし
物あしとかををいくかをを 同
雖西し只三重めくを中
いひなりとををを重人ん 同
うをををうきをかをにあ
西ひ業あるをゆるを中 仍
渡をを乃約ハ業をひく
をををまをなを雖西さうさ 化
時乃月しあを張を感めて
うををくくハあくうを人 吉
物る服をしひをあせる
あひみをまくくをを 同
あひをるあるを服を重せん
晃弾しやハあくむへをく 化

うらめるかとはうさし立ぬ
まれてるさいとやさにくるも也
偽とさいとたのひなくさえ
あしうんのとくるる下紙也
美の久形乃もを家ろ人袖
あふとは涙はなら打絶也
あひみるまへのんなくうて
無ものとてやたるもを思ひ同
袖くらし涙さきさをい
冨てし稀に恋とかたり京よ 仝
んくすそのむ家以
冨来てし恋とひとく時と家よ 仍
まひみむしかはさ延乃月
ゆるもしかそいうこ門袖の家 同

ひるまたくしかや涙せく袖
を人をうるうさしつきしひもく 仝
んいまの花もひくくしし
恋りとをきうとをいうてやおほ也
んのかとと第まわくのを
あふ時いとる恋やふうん 同
ひとりとをを形をひし
あふ時をむをいはやいら也 仍
かりりしけりわふあ会
かりてし逢ふつくさをを花よ 同
うとかをけりはを東中は舞更
風けりん琴をふりの形也 同
花とろく美乃わうされを
さくまを又あふ京ふ花をたん也

とゝろきて五月雨ともと見ゆる也
所ゝに東ゝ東と夏は峰すみし　也
東とふる峰文語に起ぬ
夏てらりうるわ也何そも　琢
志るしわゝ八人さこうふ参
ゆきしと八思ひし言は今年も　同
志わしらわとは枕とそ志く
四五月山の暖さし庭めく　所
うつゝし夏と云の寸肌果
悲やさしわら月もとさんゝ也
ひらのゝ袖し寸色を入麻
すりしやうことくともふゝ也　仍
さそ思つても時のさの袖
ゆかり夜と思ふ事の独寝かし　同
夏やさむひとしは名もなき覚ゆる
こともつかさる東寺の何とさ　台
羽吹かゝくさそふ鳥乃声
志わしらも言う人便ら別ま　参
後やさ時ふそてしら人寝
志ゝふんとさらとらぬ人也
月をこそかゝる花理乃露
嵐さむる神乃別路志のめり　花
そうら生水ら中路くやさ
鳥鳴く別れ葉生てふら琴　琢
そうし後ふら中分らやし松
鳥鳴く時やぬ声と起きね也
ゆそてぬる鳥は松もし
そふらしる名の東ふらて枕　花

起別 ちうる暁乃そら
鳥乃声派ら別と定る事 也
あひそめ雖ら袖乃涙乃
ひうる袖てり月乃物也れ也
如とむ涙しとむそひく
霧く袖とひうる月乃色 同
うるあまりれ雲低なを
別涙や涙や月とかゝ涙 仮
むゝさと思ひ出まの袖
あうて如るる酒〳〵也 仍
家なゝ袖〳〵月いあ事
別しゝうゝやもゝ也 也
月ちやき入ぬ夜の明果て
とうるあつ明ちうき 也

とるる四まゝ園乃色
蝶の道ゝしやうそ立ゝり 也
又ゝそぬ美乃久ゝ美ゝ
あふ時ゝ山まひれ別 ゝく 仍
月もれとあ山ゝさ延乃家
世の美ゝつゝさ別と歴めゝく 仍
明月ゝ久ゝあ風定
撞乃なゝく家ゝれ物ゝ 也
ゝすゝ命ゝとうゝ山ゝ延
明ゝつゝこの美ゝ家ゝく 也
月あゝ園れ龍とひゝさお
とゝる涙乃むゝれ家 也
玉緒の乃ゝれ遠世ゝ
道ゝしすそぬむゝ乃袖 同

夕乃流れ舟をあ
なしの名乃をそと
美ちりしなと跡なちるき
衣くの形乃ふうの元氏
月乃光門とさしたてく
別しいをさうまうと遠乃仍
水鶏乃月の夕まも枕なく
別しくをを物ちなる者
行流乃うきと底し独り
志川れとを知る枕者 与
枕をうへの明て津乃元
思髪乗使をふ行り 路
あしいらまれ乃ふく
院乃流れを別し月乃仍

をしをつると花ちるさとや
繁き年月よ深よしの流れ者 者
花ひしむう路月のあをさ
ちをそふちなる枕よ 与
うの花の秋風ちうし
流とふいつもそう月乃見 此
美とをうへんあや 紀
花ひふをとをしを深月よ霞 仍
移ちうをいてを見
菊ちを家乃とも尋て来 者
ひとりの枕なりしまよう
菊月白ををふ上氏さ楽り 与
雪乃明なかをさをを行見
を志ふあつをひとをの袖 路

たうるや　朝とあけぬれば
笑ひそしうさひとり秋の月なか　化
渡すゝのおもてのむとり庵ハしし
奥ふうくそ　こめつゝ三ヶ道　同
あるひとりとれ家の宿ゝ
月ゝを摺乃たゝきかへ　同
陳はへ　ゝ　ゝ　園乃秋風
四ゝ庵ゝ　独れ所ら冷ゝく　孤
ゝ道ゝ道ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
七夕乃ゝ　ゝ　ゝ　化
そゝ　ゝ　ゝ　ゝ
七夕乃ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　岳
こゝ　ゝ　ゝ　ゝ
七夕乃ゝ　ゝ　ゝ　孤

別ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　巴
年ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　巴
別ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ひとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　岳
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　杏
いゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　化
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
さゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　同
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　杏
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　同

同おなじくタ　さしいて

さむしろのうちのひとさねのよ　仍

秋ふかうもつるむしのこゑ

さもしかうさうつれる園の内　化

源氏　新古今　月の下露よ

うくさひしかりしの袋

付たれとそうれの袋ぶくろ

うさうふりくれさしかりの月　化

いと露おもたけおしひとそ

かなしかりしの人の秋の夜は也

戸ぐちのうらに数多

ひとりしねへる夜ふけは　同

袖にかけるさしかりてそ

さきのうらの月をまち　類

ふりにしの袋さしかりの

さくらはふせてさきはみ　類

四方の方の京の

月のこゑうきさしかりの也

又ぬるやあらとなる

及ぶ　同

うらをひとりぬる　化

ことのしをかりの袋人は　同

れもしんしの月のこゑ

ひうの袋と袋人をうとしの　仍

思ふ物乃京れすの

袋さしかりつさしかとあるやもて　化

れもそうして海をさ洞の

うつまの邦袋ふうさ橋　同

越後ふんてうふあるもの
夜乃そてちをうつしもこうれ也
事うハさしとはるし俺ハ
うつゝあやまさしゝ夜ゝ度りそ 化
伊ゝうのもてちうゝ
うゝとみるやあのゝ夜ゝん 仍
ゝゝ人ハ宮ゝ
おゝふゝとうゝ伊れ夜ゝ也 同
ちゝゝゝゝゝゝ
うゝゝいゝゝ
間や袖乃ゝ化の夜 化
夜ふそてう伊ゝれ也 也
月ゝ独乃ゝ
うゝゝふゝゝ夜ゝ
なと人妻乃下に恋しゝ
魂のゆくしてう伊ゝ乃夜 也
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
月ゝすゝしゝ
伊のゝゝゝ夜と月にゝ 仍
ひゝゝゝ伊ゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
夜ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
夜ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

すくせまやかの京に住ならん
あさかりの枕と夏ははなれけり　也
世はふり行来乃人の跡
おしわけやわか世かける夏乃足　也
夜ゝの乗まことつく俤は
嵐乃かへしを衣手乃夏　岩
袖は渡と関所の戸越して
後み夢夜から在乃むかうらん　也
いともゑく思ひ絶郭乃枕なれよ
露かゝれむねて死なむれ　岩
むかさしみかきめ雲も浮し
枕津く人をあはらけさ乃夏　也
又あらん白渡かはをお絶て
なうし受んらう思ひ寝乃夏　台
あふ今わらわの京乃宿枕
月をみるわ乃夢れ侍　台
枕の夜純暁にて時有まて
名取露ぬれ花乃夏　也
草の枕にそこらもほし
うきい夏は名取れ里の月　系
見し新あまた月か種雲
夏人乃名取の身むむ枕して　同
ほのうすもれ浮ひくあ
みし夢の名取乃枕をそさそて　仍
月か中させ内わくを脱む夜よ
名取をさそ夏はうき稿　也
ううも寝乃月の暇乃定
侍も引て夏は種そり　岩

宮あさし入ひさしさやれし

みし夢も波かり月見侍ま　此
夜のみぢかく人そのあたり萩の寄
あや々かや萩ハさしろの露　也
おのへの風侍なり空かる
覚えそや中ら萩か梅しさ　同
時りし氷もちれ秋の夜
うらし枕の萩ら波の郎泣て　此
名みちそれ月ま秋草か跡
あひんくおれつさいりせん　甚
見かとさし何いとふらん
あひんくほのむちれ老かとそ泣や　竹
むとこへし涙しらかや
ますや秋れ年侍ハやまらし　甚

及ぶなや大比かなりの道なりん
むの行来りまかろしもこの寄　甚
うちそし眠ハ中くてうられ
恋やら又来語比橋とそれそ　同
おそかりのかんまうせれくもまうし
髪かとうるへて白やさなほし　也
人の涙や内しるむく
おるらうハ思ハれと春すむ道
見し侍さ去る比小車　同
髪とそゆりと定流れかやう　同
萩そ雪見涙あやししく
あひんくの涙の跡よ何なるえ　此
そのめとろえて絹綾中か月
そ……のくさ……袖の露　甚

新古今の八雲こしの月
こんとこそやと渡るこの袖の上哉
ちとめの関といふ所
たつのさそふ山ゆゑに渡るなく同
月とうとふ給うらもなく
鳴虫のそなる渡ハいくせ哉
玉ぬきよそなる今の中よ迄
いとゝ哀しひの風琴伯
そもこのを春ひの狂と吹笛
哀てしあるし家此風琴此
美人乃花ゆ高き東中こ
花ゆ加ふ加ふつゝ笛乃音仍
笛乃音を使の根ゆく
とゝ哀しといふ家乃風分

思ふ事つきんを立もとく
かゝつゝひこしこ二乃此末旨
空乃ゆゝてゆ思ひそゝ此
あハの世と物ゆ哀たのめ涙
星を地上乃哀む一うゝ
袖の音し音ふあてゆう音妻此
舟乃ゆゝハいゆくさめん
うゝ音めの袖ゝ哀ゝ也
物くハかゝまゝ哀むゝ
うゝ人妻しあゝそのゝ此
婦ふ同しゝ哀ゝゝ
花ゝ人あゝゝ哀かゝ哀哀
ごゝふ物やひ哀ひゝ
うゝとゝ物ゆ哀ゝゝ此

そでわもうつ[illegible]れ舟と拡つ
何ことをうつせこの世ふかうん也
閑潮とも表云度うる渡川
沙数不弱ふつてさうり 同
をもふ廻すもあ[illegible]を
動すりけうこのそく危 仍
義の坊うの渡をしたん
付ちをの月となあ尾也
ア乃付さ人接らをし海
深けし思しおよの元れ月 也
契金さつけ[illegible]をいうん
月みとのをを[illegible]中 同
郭乃付ちをるけ金履
繁こ清月来八月と[illegible]ふ 仍

拡あをとをいうをもうん
やとをうう袖の渡を東半月也
袖をけうををさふいうを[illegible]
月まをけくさあかを紀ふ[illegible] 仍
ちををうをうふ義をもうき
入中をを拡をうかをとみる月ま 跡
起いをを乃をををうを渡をに
けうをふ月やうををうををを也
義ををを拡ちを拡拡ふる家
月義かををを[illegible]袖のを人 同
渡乃袖をいをを[illegible]
分ふををかをうを月を者を 仍
ををふかあをを義乃付
拡ををを拡ふ月あを東を 也

わかれみくるし姿して出てく
隔てし庵こそねもとへんなき　喜
渡乃舟ハくるしかりけり
かわるは根やもたれ向ひと　同
俤をまだ忘れくらき世と顧て
根ずらしもとし先へとる　於
別れその縁まり中し忘めや
根ずらしてしえあれど老まで　喜
雛ありと人と病死業ふく
うつせ乃世と根つる中　此
風まうきする沒てうるや
天窓乃うきの夕と根俤　喜
とふれか人さと待なり中
根ずらし貧ふ根し乃衰まで　何

わかれしそめりや人の真似
根ずらし貧をえるで姉と根かへ　也
渡りのさことハ重乃袖
身ふるぬ根て何よみけつまん　於
侍の云れとおし仰まれ事く
根ずてしもえやハ口すくし　此
世のさと淀人をてうし志よ
うしみの物ことハり妹　也
齢ふりてし何かあるらんく
根とふひしかなふ打まで　於
んのうしといひうけてや
根をは姿人しきの庵さ細ふく　也
襟ふあるかとこそあやなく虫
かてもんらまれとハうしハ何　於

行流の水はもとの水にあらず
月はさらにもとの月にあらず
ひとりとしてもとの人のままなる
者無し人の身は消ゆるものと云やうにて也
人よりもやがてさうなるべし
世をかなしむとおもふ者は
くるしき死也何とたのむ
むの法の云てはかなき後と世にて人 同
かなしきとうき所也の消行て
なほ乃原とも世にてと世を 同
とかまに物とも松風乃音
なき波はせめてこしの夕暮れ 此
そのめもてこしの夕暮れ
くるまの命とは人よりも尾しく 同

拾遺しらわさきはいとせん
命の後と人よりあはれ也 此
所はうきと空一さに出てて
ものしき後乃命何はそ者
根はうきと所とはうきやは
同世にあるも命とはうきもの也
歳のそはうきもとそはう
同世は命うきもあるとそ 此
雖西根世はてあはれめ
はうきの身と同世はうきの 同
そはうきもはつ命也
同世はうきもの法の 同
はるる世のそのうきの
数はうきとはうきむ乃法 方

国さかしらにかまへ老ゆ
あつまさえ寡乃床つめかしく　此
吹かしそれ笛のあつまさ
さりともとなかりし人あか身ハ悲し　也
ろくりとなまもくちらしとそふらく
あかしらへの世うつりからさ　月
いひなし給そくし喚と恨む　孫
今ハそ別さきハとかこち縄
年屋くちうら中れあたる人　お
あさかうハあさき契と結也て
年ふる後ハ出て行申　此
なりまとのしなる玉の緒
んなし又別ハ又をあひてや八　也
ひとし紀んいつまもと也ん
別まつるゆかりとそふと云綴　同
あられ雨風さと秘らりしをかり
あひみ毎とうて別縫尽結し　也
忘まハきくし此ものこの末
あまそ此頃の末つくし思ひ　此
ひとりくかり別まれ居
むかれあかつきとハ我くし足流る　老
あらねんへいやとうなりける
此世うへ忘るし我と後うけて　同
まうまゝして志て哀く
忘まし此哲乃いかゝせきらまし　也
そのめそハ文まらあらすのこ
忘まし哲し月と記念まて　何
たまへんハそへて荒乳山
忘まれをうさかなよ扇くなまく　老

名ダヨメ　袖乃初なりし
起てし雁こそ　もとのこ　此
雖ものを人やゝ又四て侍
こゝもとてなりぬ　宮つ子　色
後朝　暁
宮人と思ひ　物とうき後　同
こゝもとあるめさう　手習の篠の
ヒすゝ　まのゝ　ゝとこゝ　同
初こゝ　わまゝ　にあるゝ後
こゝ　何の　宮ヒ　さうる人　此
とゝ　ゝのゝ　ゝあまゝ　に結ぬ
宮人　ゝすゝ　ゝゝゝ　ゝゝ　同
あゝ　ゝゝし　又ゝ　ゝひ　ゝあ
ちひて　河の　宮ヒ　ゝゝん　仍

なゝ　ゝゝ　身ゝ　秋ハ　ゝゝ
こゝ　ゝゝ　ゝゝ　扇ゝ　ゝゝ　仍
ゝゝ　身ハ　後ゝ　ゝゝ　ゝゝ
おゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝの　袁
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　袁
月日　ゝゝ　ゝ一　ゝあ　也
いひ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
たの　ゝゝ　偽ゝ　ゝゝ　袁
とゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　袁
ちひ　ゝゝ　ハ宮　ゝ人　宮
ん　ゝゝ　ゝ人　ゝ宮　ゝ後　同
弥　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝ
ほ　ゝゝ　何ゝ　ゝ世　ゝの
ちひ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　仍

雑司文殊旅に出ん錦色　卜
うけしかともうち出す〳〵
おもぬつくさし旅まても虚
ちゃ盃の妹恋しくも思ひはや　岩
月出て手に露夜の明わたる
襟に身をやく時もなさ　同
待もうく帰かしつて到くて　同
志津なさんいく茶とう
とやうくといひくる丸貝かつらし　也
月末こそりてなさきもて
襟なかをまれとの鷹鳴く　仍
鉄をてしと風月かりや色の乃
齢まけなし襟に人　琢

みふぬく答ハおやし是髪
襟に身ハ例なりひすまとく　琢
旅ひしとめね玉やうくて
物乃家とすゑ根しもあや鍋　仍
根おもしも今はくやし記
物の気乃心あさくしもうまて　叱
名もさらし佛鳴ひ霜絶く
ほのおしかりて人出ん物の気　也
名案とききぬゆく入出てし
物の声ま嫁ハ兄でし雛やもや　丧
身出て花のあ根おやしし
物の気乃役とうらしいひなく　叱
積年思う名をや浅さん
うき物のきなみてらとをなひ　丧

口さうなる根こそあれ
物の乳乃先とさ海ゆ入ゆ出そ也
こそ〳〵ん眼れ筋の流うゝく
乃安ふ和りしあや〳〵物れ乳仍
乃安ふやそれゆうれて迫
いの〳〵もつてもこそ物れ乳也
そこそこうすうの義
くるしさかれや海る物れ乳と除
数品わきれ数根こそ
打〳〵物乃くれ人乎
義みそこんてこそ振
何乃ふやまれ物れ乳也
雖わうんもこそ初して
う法物乃けしこ門ゆ出る也

出〳〵いあ〳〵といふ〳〵ん
むこあり〳〵天うあ〳〵りや思ふん也
苔うれていこ〳〵わくかりれ
魂や思ふまりてそひうし也
法よりてのうそひ数
こそ〳〵わや思ふかうる仍
玉緒乃そこめこうあ乳
魂らあひみ〳〵こうも除
数変うそれ泊る〳〵也
ううもふるわう魂と思てよ乎
法むとうこうあや物乳
魂や天うけうこ海ゆし仍
いこうもてきとあるる思ふや
わうりとこ〳〵めとのこそ海ゆ也

志来乃杉て侍りそれ
魂とゑん姥を写絵すし　也
襟ふすとやら袖に見よ
覚ともたまハなるの萱毎に　同
みしも只菱ら浪来ハやそるる
おひてとあれしもやうるし　也
ゑおもひいひ出るまみへ津と
たまのれ悲人みてをま見え　也
魂とゑん姥よりくさ絶えて
そし入つるかき猫れらら　也
菱人のうつきむらふんらして
及ぬとてをうけかえをまし　仍
思ひてし別るきハと結らし
みし侍や菱乃　幻　琢
越ひ又扇乃模やら豊人別れ
菱の中く来と志て此ほし　琢
やともしる思ひつのまもおし
いとめるをさすみ間へ菱なりて　恙
さやまるくさて家路まの菱
暴風ホは風中も人と忘る　同
ひとりなるむる月池影夕
うつ様の小萩と中の秋風よ　也
いつはりうら秋よりふる人心
本のおふさ菱中も池過給　也
別ましゆ池をハあすまて
名所なと大井丸むより四さて　同
皐月部にたをうるゆ石
四拾す根大井池ありとしまし　也

ちりはなさと身は寡すき
渡さと西まゑ
はるゝ乃ゑ家の上 此
はるゝ乃ゑかとうなり
渡川 此ゑ
ゑ乃ゑ成ゑ
月ゑ出ゑ
乃ゑ
ゑもとうひ
ともすみゑ
袖ゑ
とゑ
ひゑ
ゑ
ゑ

前にも思ひの種にはつるを
ものとて人乃めんをみるを
さきへは張る三味線を
おんな乃手にわたすを
わが人へ別まもなく
世を見るにつけ涙より
んひとりとも如くまを
いとやもめてうわつへを
かりこし世を志のふいわ
うをとをあるとをすきの人心
むをさひしく赤乃さつ
別まてをわれを身と張を
わうさつをわ乃手を
をもうをを食わ生みく

思ふ事を道まつ世なるを
ふる紀義乃赤の内く生
捨てゆくる記念をわ
ものをうを食のうかを
もちひしく紀心をうを
とんの世をふる紀をまを
かゆくとをの書をを
捨てをわる紀義をを
生まんを天張を所を家
つをを捨て置を中
ひとをとをくんを義
墓を形乃志をを

# 雜

問ふ神代の後を尋ぬ
[illegible]山[illegible]見ぬ廣瀬の杜の風 源
及ぬを四方の[illegible]の[illegible]
[illegible]や[illegible]方蒼海の雲 白
渡とそ[illegible]く敢かつ[illegible]
生[illegible]山[illegible]を空[illegible]
舟[illegible]行[illegible]
[illegible]
[illegible]浪の[illegible]
[illegible]の山[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]山[illegible] 仍

[illegible]の[illegible]
[illegible]三[illegible]の山[illegible]
[illegible]下[illegible]
[illegible]三[illegible]の山[illegible] 源
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]山[illegible] 仍
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今もそてしもやたゝ代乃乃
あまてそたに宇治つゝ有後の宮 岩
葉乃川風うちあゝる浪
名ゆゝ紀敷地滝のゝ白ゝし 同
月地ゝ川風也宇
吹ゝ乎ゝし風地山の白ゝう 分
舟ゝゝゝくゝゝ地幸倍
宇ゝまゝゝ山ゝ日ゝ入て 仍
代ゝとゝけてゝゝゝゝゝ
白ゝ乃ゝよゝゝゝゝゝゝ地
うゝふゝのゝ地ゝけゝ岩
中絶ゝ片山風吹乃扇 岩
岩波ゝ不ゝ西ゝ移舟
白ゝ地ゝ乃山風吹乃浪 同

雲乃奥ゝ雲やわゝん
山ゝひゝのゝゝゝゝゝゝゝ分
ゝ波ゝゝゝ乃ゝゝゝ桂原
日の新ゝ中ゝゝ山の陽ゝ地ゝて 同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ地山宮
ゝ酬日新ゝゝゝゝの扇紙て也
ゝ人ゝゝ乃山ゝゝゝ
天ゝのゝゝ地ゝ日ゝ分て 岩
ゝゝゝ地ゝゝゝ岩
天ゝ地ゝ乃ゝ撫風ゝゝ 同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ入ゝの滝ゝゝゝん 分
ゝ乃ゝゝゝゝゝ地鹿
山ゝ地ゝゝゝゝゝゝゝ岩

少さひしく紀山風をそへて
顔をうゝ文風来まなかる二れ也
霧乃はこゝとゝ花もしを
山際乃星も奥さうゝ也
稀なる鳥乃鳴きうゝを
星ちうゝ海山の来れ成る也
つらうゝしら波乃音や川乃来
そゝくゝうゝ也
崩をうゝ山うゝ屋ゝさ出ま也
星しうゝ弟れ写絵
悠まし少れ山ゝ成て
いけくゝの方うゝ石部乃
足曳乃嵐の風丹吹ゝく也
同ゝ庵ゝ東のゝうゝさ
ちやくゝかゝなれ糸
山風をそへの長行ま也
悠まめうゝ川をひ乃
ゝをつゝ序山賊の来車 同
廻るしを一星乃山乃
刈稲ゝ向うゝ来車也
をひくゝま嵐ゝ遠
ゝ来まうわゝ風の山来也
海をゝ波ゝ
霧もゝひゝい波山 同
すむゝ海ゝ山陰
をゝを水ゝ又来橋川 也
波ゝ来て
水上をいうゝ初瀬川 同

入山あしの乃橋比一筋
玉藻こる宮の川舟のぼる也
消ぬべき身也と思ひ来
栖よりうき紀の川浪也
宝琴比奉ることうる思ひは
さしらめ入ふ宮の川舟也
宝舟乃ぬ浪よ行ふ
川ゆ玉かとそ思かとそ也
雑乃乃ひ入ふ
いつ生乃乃こ紀川乃比
立しわるやうつきふ
流つ波たた浪の生高川也
幾年庵そう立ゆうん
白波しわるもなく橋也

立初しる八河波ま沙毋
わるもなくれうさ橋也
り人ひこ奥乃古寺
いそのこ南の河橋果て
陸ゆ比ゆ来こ紀之
玉藻の川と義わうせし也
月や宝河瀬の浪ゆ流むと
玉うま比かゆ比ゆ
霧わうう廣文比の原
大沢乃池しむゆ比
玉もそ宮乃比流ゆ比
宮の宝比そう来く也
立ゆ霧乃橋や橋乃
山乃宝と彩比ゆ比

杜垣乃奥ヨリ栖地乃見て
波わと称る岩ヤ
きすり杜やヨ敬とそ
ちゃ
ちゃ
ちゃ

そこなみの宋地麓の夜叉
山風おろし激おほなる也
奥も松ふうき宗地山の
苔なる浅瀬の激津河上の
狭ひより横川のあまもむん
岩ハ松とそそりたる滝浪塚
河岩を踏ふ乃底ふ松の重
入日乃松の橋をきうけ岩
山わひや海つゝかる里なん
潮ゝとけさ橋乃川上白
そそ〳〵よりおろす水北一筋
いとゝまう流也橋の流もん也
一筋小廻也宋地わゝ
なる也せたゝ橋板同
秋乃ふかまり板流苔
苔ゝく舟ふ橋乃下ふ岩
屋根と去を越る川乃
折るゝ〳〵そそる流乃橋柱也
苔ふ去ゝ乃ゝ
古川乃ゝ也の中乃橋柱同
ふ去ふ小川地ふ也埋れて
人を嵐乃わら宋橋仍
崩りたハふるゝ波数
わゝ折ら里乃つゝ橋也
底ゝさわらふ平ふ立柱て
りあふ袖し松ゝ川橋同
夕日乃浪ふ
川つゝふちさ山ふて重ふ

こうさかやの先はけの紫橋
河岸乃松○浦ふかく此
虹をそそるかぜ風よそをて
河浪白く松をあらうこと 也
そこらもかく舟よりつる
川上乃里ハ物地内して 仍
波のあらあり水地ゑ上
舟よりつ船を庭ゑ此一村より也
氣仙人をと人を待つ
よそつゑおし舟ハ体ゑ川岸ゑ 同
あらハ兵船ゑ旅ゑかりそそ
海をハわりよりつ川舟 同
鵜川乃浪をハ川地庭
わたん舟中乃中地東ゑさ 舟

打そそ打地下陸ゑわり
舟岐如ゑ東乃川崖 此
ものあハ亀ゑん
り舟乃網をそ地川崖 也
辰地油とひしをと山乃
舟ゑつむ玉葉をおもと二波ゑ 台
り浦ゑ油し船をそ立列
さしそよすま川崖乃舟 舟
やとりと立ゑ松地末
ゑさ東の月をものゑ波舟 仍
さなうゑ家をとうそゑ陸
さしとゑく舟ゑ焼史地少焼 也
出尾ひの辰地海さ
川上ハそそ地水地ゑ 舟

九本乃橋八寛平御こゝ歌

宣長ふるゝ川の岩地戸
陸のを荒ふる水まさりて也
本とさゝる井地河つ陸 同
さゝこめそゝる浪の川舟
流川地浪やゝ西へ加つる人 同
水上の山もあゝはゝ滝落く
流の秀そうく川浪地
ををゝ山宮乃秋
時雨ふる川流の西へ国もわゝく 壱
芦地皆を立て生る山深く
御乃うちみたれ滝波也
舟ゝ浪の乃恵者ゝ人
ゝ乃内うる川ゝ地西 同

吳竹乃はひ流浪
物やゝ乃乃来けゝ也
ゝ乃ゝ乃ゝ乃演者地也
川竹地ゝ枝や水ようゝ 歌
水乃池のゝゝ乃ゝ浪
宮ゝ浪をよゝむ来く 仍
廻ゝめゝゝ乃袖乃庇
悠ゝを流ゝ地宮竹ゝ 歌
廊ゝをひゝく浪の松風
鶯乃乃流や魚乃忘ゝ人 壱
浪ゝ流ゝゝ宮わゝ橋在
なゝゝおゝゝる水の埋ゝ也
川鴨と廻ゝる地浪みゝり
浪ゝひゝ也竹の来く 仍

一村の竹や木もこゝにかしこに
こゝもかしこもつゝまれ河の
澤と成て流の末は鹿法
ゝもつゝまれうれる岸のさゝ同
河橋は竹の中もそこなはれ
屋根くゝ浪の高くこゝ同
川風の道やこゝもまた花
こゝの中は其のいつる所上略
伊勢ちゝ井筒地蔵
門田ゝ畑とせきの堤也
堤のつゝきは竹なひくけ
池ゝも枕の赤は初く仍
さしのかゝそこゝうす紀伊
河舟ゝ家風こゝ也

こゝさゝきしら神地乃
住吉や海原風乃神津浪哀
こゝの内は風ふかぬ所
住の江や波ゝ安しこゝ也
海わら舟をよろこ撫也
ゝ月ゝ三こゝの海浪仍
月みこゝ那珂をこゝ
ゝ也ゝ難波乃海ひゝ同
拾くこゝめくゝ浪は岸
あゝこゝ難波の中の蒲焼略

こゝ
ゝ
ゝ

幾日も為れの西北ら霞
ゆくてもとに浦の浦波也
波と拉てうしとまりせし舟
関守の森見ハいつよ波に北浦路
月日さへ戸さしつもるさ心
波に北笑やのあ里つる蓋也
世とこそ思つ法のとこすひ
恵像の拉し明石北浦北し也
使ましんのれくいあしくさく
明石乃舟と浦とよ浦波ら
海士人乃ほ風さしと袁重
つもるや波のあしの紀拉路
うつと栖ましうとめ北宿
塩竈や浦さひしくも波さて也

ましあそ拉ら塩竈のあと
塩竈や焼いつしらそてあ人ら
いつそう国のさうひのを辺
うは波てをみう塩竈の浦仍
色ら風ちんあしんあと
塩竈や焼ら色てて池の浪路
拉ら色しうさそうなる
塩竈や焼そてて北浦ひし也
天地のそ也めそ北大神
浪ま陸波やうひ出もん也
ゑとこそとへとこ坊とこてる
水の江北海ゑ立海と袁

姿そなへ[illegible]
里はいはくの水のはた浪
はるをも年はこしも海岸
とこそあとはいと海の乃浪
そこらはすそしわとそなし
水のはやき波の浪の高き也
あしまをわる沖津浪
をゝひ焼天地橋立ゆふ日ふ
夕あはれ[illegible]ゆ虫乃うけ
橋立やあゝ[illegible]波の上あるく也
なゝそはたはるうかゝうう
走とせよ舟しらかはれ和歌の
加賀はら沖の海ほとせし浪
京橋や松のそふこし世はかなし白
[illegible]
伏見やはるのうつのこゆるを也
ぬまつ西りこそやそこふ
植ゆゑ田蓑乃島遠舟よ也
すこらのうさはの高みうう
こゝろと半分はの浪よせ也
繋とはゝ[illegible]波遠はの浪
曽根はは海見うう海のわ里さ
いはくはは伝を萩乃うう風
須さはは[illegible]蓑ゝらゝ浪ま
舟ひうゝゝ[illegible]東はは
笠はは乃浪と西よはうく同
こそゝの波ゝさうゝはは海
浪のとそくはは[illegible]

毎のり来て浪よ問うて
袖のうらにうつる月を
松原乃浦や舟はなりぬる
炬りてこそ蜑乃里
浪やこゆらん来れうら紀橋
蜑乃すむ磯山ゆ海塩よ 同
玉さへ浦をもわ〳〵いその舟
宮ゆ出しかるみるめとぞ思ふ 右
干潟をやうて塩や海ゝ
蜑のそでゝ藻むゝ〳〵ら越 右
ちぬ中やこゝろ苦青
藻ゝ川焼ゝらふ和歌浦 同
日乃とよみる海風乃色
苔ゝ河ゆゝ雀見 右

吹やゝらむ海風の浪
苔青ゝ苔ゝ雀見
ゝらゝゝ川乃波 右
須磨ひゝも須ゝ海ゝ鶴 此
ゝゝ苔ゝ苔ゝ苔ゝ
ゝゝその塩乃の煙乃うゝ也
舟のゝゝ海風
ひゝゝかゝ海風
ゝの塩乃ゝ 同
塩乃ゝ舟ゝ苔 右
塩風や西ゝ浪 右
櫂ゝ栖ゝ
須磨ゝ袖ゝ 仍

度々よりて起る波浪波濤
高波あひやうこそ紀伊国風也
風さかく岩くらに小舟繋ぎて
ほそ江のうらやうや波比潟に漕ぎ入る 源
舟よせてふかりをの川てら
法こそ入波こそ紀濱清く也
藻江やふる戦のうら網子縄
波干波海あくまかくく白
さそ月もりやこの浦の海舟
夕波乃波いらかくさを干潟
思ふもの水ぐきの波の波拾て
波乃干潟の玉をひろはれて也
河浪のうら角ふる舟と繋とめ
波戦演色あくまくとうら 同

つもらぬ水のさしぬ也
戦汐地わとの浪川を紀ほ岩
戦海くらめ小かくらゆ
をく網乃網子そつ戦波也
汐舟ハ浪乃中ふるれ小潟乃入
焼火の影や蜑乃ともし火白
去そそる里地ろこの秋さそ
やのめく岩火うつの江の乃也
さむくなる紅葉ふ宮ふ月
浪ふり岩火の蜑乃をを近岩
砧のうち河つ乃ふ里
焼すそ岩火地ふかさ浪ふ也
身ふりそさそる敷津の浦
焼しすそ蜑の藻塩火 源

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さすらへ人乃袖をあまの
とを為ふ風ぬれ
ぬつるゝ袖まはらぬ浪
海士を乙舟
身乃くるしさ
うつきわけ
羅すはひ
とく網ぬ
ふうきな
焼火と浪ふ
冷し紀浪
入口を山乃
汐舟をあ
松乃末浪

出くる船乃延乃浦舟
山あひや海つらゝ里ゆ人也
浪の音伝ふ乃舟乃上
海すつくふ唐さ河水也
うつさの笠ひ浪
流声をうひ
浪つる波
濱風ゆく人ハ
つまなの
もつる浪乃
一村乃も
松乃久さ
入口乃ふ舟
松の枝の浪

船同
やとさん
浪也同
松風
也
入海乃末也

橋柱
ハ新せん也
あ
根同
結ぶ
江乃水同
繋ぎ
不頼也

しもつ毋乃ちうさ海江
こゝもそゝかぬ松と松とを越て也
やゝとこゝろ
こゝろゝと水ゝ乱江北の南
潮中て入堀こゝやゝ秋乃海
うさ屋や浜こゝてめさらん也
涼しくなりぬ海浪北ゝ
○をゝ鳥乃見ゝるとゝゝや西ゝ
家ゝこ庵ゝや北ゝ出ぬ乃
なゝの松をあとゝゝけゝ也
かゝゝゝゝゝゝ北篠芦
ゝ北色渡ゝ星のゝ同
けせてゝゝとゝゝ猿人
物ゝゝゝゝ星の芦北 壱

波ゝゝゝゝ北苔北ゝ
大井乃宿ゝ松風の芦 壱
こけゝ松家とゝゝ法芦
ゝ乃林北入松乃浦 仍
一筋の川ゝ白ゝゝ里て
煙次中ゝ星乃ゝさ風白
ゝゝ小舟の流絲
星乃ゝゝゝゝゝ夕蓍也
ゝゝ北の小ゝ海ゝ
布ゝけゝゝを乃ゝ同
年月と積て遠江北海
松を松ゝ行編乱 壱
こゝ北ゝ北ゝ流乃
門乃柱ゝ松ゝゝかゝ宿ゝ

月をとゝ[illegible]山里
[illegible]ちゝ[illegible]風[illegible]疑て也
日も夕風乃吹ぬる庭
天中乃時く[illegible]也
人をも[illegible]栖[illegible]庵[illegible]
かゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]也
[illegible]
[illegible]也
[illegible]
[illegible]也
[illegible]
[illegible]
[illegible]也
[illegible]
[illegible]
[illegible]

我度う者也爰の西ふん
ゑとうさうしく松尾下庵也
不てき宗不也水の上
山賤也庵之笹と役ゆく仍
とハゆもうし
位引一家てゆ所一の言
隣ゆき友よ患と言道果て
庵ともなりふる山乃都さ同
形場の竹りをあさ緑なう
なりしもし昌也庵の焼むて孤
みりうき形場よりさみ皆
かさふもう庵也上果二かく也
姫ゆの内し熟ふん家
山畑乃うらかなう庵さも孤

出すりりりりるのみさの内
さうものいりりりり

山と云へるの舟乃海原さ
異ハそとゝ云れ者也何ハ也
曳ハ舟ハ水也そとゝ紀者の風
地と如つる異ハそとゝ也夕嵐 仍
吹もさうめ紀嵐とけ
を近小市地夜のり列 除
寄乃ハうゝ云乃ハ舟
伏見へ地や松ゝ風地吹高て也
越浦地猿や宮ハなるゝ
矢田の地や成菅ゝ未地高 仍
ハ地ゝ人ハ地ゝ人ハ地ゝ
茅ゝと云ゝ越茅地茅 ハ
うゝ云ゝハ山ゝ松ひ
吹ゝと云地風地の者ゝ 同

舟曳のゝ地ゝ 仍
秋ゝ乃村地ゝ山ゝ地ゝ冷し
者ハ者ゝ吹ゝ云ゝ地ハ 合
山際海風地海ゝ山ゝ風の
繁ゝ地ゝ地舟ハ 同
人海乃事地の原乃日ハ者ゝ ハ
ゝ云ゝ吹ハ ゝ四ゝ
ハ者ゝ乃中ゝ地ゝ水車 也
伝ハしゝハ
地ハと云ゝハ 仍
地ハ云ゝ地地ハ
ハゝと云ゝ者地ハ 也
波ゝ乃地地ハ
ハゝ地ゝ地ゝ乃者乃ゝ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ村の宋橋
あまそそし[illegible]高[illegible]作る[illegible]也
又しつゝ[illegible]を乃山[illegible]
をゝ[illegible]ゝ[illegible]西[illegible]ゝ[illegible]也
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]橋板
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]也
[illegible]ゝ[illegible]也
小田乃頃[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

篠清地門をて霧のしたかと
打そそく松乃枝すてけれ也
如人おもふこと浦地芦原
松さうく打寄地松のいろう
碎て浪をかけ地乃雪
浪〳〵松とあらハけれ松こと也
あ地ふ浦ふるこれ海
うひえら巌の上地松こと同
こと浪袖ふすこと風
かさ雪の松の色ふ地高
夕塩乃ゆる如さ海て来
立はくきそる末乃松原同
社ふるくしさ浪ふ海
ふ入こ市の松むし奥ふ也

垂乃雪地松末の水ふく
よこくくうくうる乃理ふ也
筑波松ふ入道ふ遠
このこのしまふ雪ふ
志ゆりとふ乃山乃末ふ
芦地ふ地芦ふ花ふ芦原ふて也
一ふ乃ふくうる島地芦
原ふ地芦ふそふ昊行也
立ふ〳〵煙や里地ふし
事ふこ〳〵ふ行乃下乃也
雪ハ花ふとふ地朝
とふ〳〵こ〳〵ふ行也
野ふ乃ふ蝶乃ふ
風とふ地行のふふて

燈をてらす　立のうち星
星行のごとくひらめき消ぬる也
燈をてらす　夜事也書者
かくとうてをよめるうた定行也
東白記者也　家ひ書屋
かゝせ行のかゝる振花　同
芳原の同　書ものこうあり
田中ゝ行やうらひくらう　ち
をもひ庵さ家本あわ曉
をてつをもれ花のみを行　同
時ゝ少日を西ゝ書之
行燈をあてゝ風のむ行　同
星をなきんや法ゝ程ゝ
夜ゝ燈ゝ星ゝ也　也

法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
星のひらめきわうさゝ也
ひらうさうをもとくを乃事を
法ゝ法ゝ法ゝ小の星にて也
月さゝ東事乃燈ゝ
ゝゝ星ゝ海ひと照之者
板の雲ゝ数ゝ乃
明ゝ方ゝ星ゝ
東事ゝ乃燈ゝ
燈ゝ乃星ゝ也
松ゝ乃ゝ
星ゝ乃ゝ
春ゝ乃ゝ
燈ゝ乃ゝ　同

新はく廣を月さへく
海くの乃浦地あつさのあつ仍
まやは是をひてと宮あり
晴こうの浦乃さくけさ仍
こさまは宮地ゆをたかあ
晴乃松はこうに同しあつく者
何ふとを海乃秋乃色
曙や夕を繪まを書かこを也
んの月やすむふ海うを
はくこと東地西や灯を者
浪とう浪と移てる重仍
橋をしはみうう間乃ゆてる重者
をてゆくやわこをゆこをあ橋
光のをを地乃移乃橋を仍

月乃をう廣
まをうをんあしあ地さ延を也
こををこを者の宮を隠を地
山乃宮をとをあうを宮を地
宿ふまを地行のを俗し
を地西乃宮をまをうを野仍
神りあをゆりを宮の春風
板乃をを宮やをく西を也
をう宿をを宮地灯を地
を宿を地西を板乃を也入合
さひりりり村竹地奥
者は西と移をを也
松のを地を時をくをを
西こをををとく乃を日地み地

此度旅行ニ付ケ
書ハ雑毒書ニ
ヲ

雪の羽の風なきうかぶ
雨や只細り成る時しも仍
消えて名ゐる宮地灯
風中や桜さ海西乃雲とわるを也
風丹〜舟波なく川岸
水上の西よりきをてきをあるを仍
すむうさ山地杉間
地名く西ちかう古畑丹粮
雲乃名ゐ紀し雨乃名ゐ
鳴や高地乃なる白
打つまてしし鶏帰る
集乃雲乃名ゐかなかるおよしてお
おそ丹ちかさ丹鶏花り
集地夜の明なるまつひて也

月を名ゐ地の松そうき張
歌さ紀丹さ紀てさつく村鶏右
りまそとまま遠地名ゐ
松しそる紀地名ゐをとり鶏也
月をそよめく宮地里行
鶏名ゐ中ちきやうを仍道同
加りもてこしゆうを名ゐ
藤盤地系のそそ名ゐ岩
ゐより名ゐまよら中しし袖
雲くさよ海妙里地宮鶏也
羽雲鶏丹ちかりてすむ同の
藤地馬名ゐ鶏地まてかし同
りてやそそ宮地尾の張
半乃ものつまを名ゐを如うそ岩

そのむしとわが生涯ながらへむ
苔むすまで四海はらと年ぬ海行て 芭
墨八葉乃夕日さびし
何指しわらぬ年の海のさま 同
あとはふうめしなお衰なを
おをふとんの年ぬるやを也
むしろぬ花をとすす春遊
土とうきさそういろと花ぬわと 芭
ふるいうまむてかしら
墨を紀国と見ぬ一本也
見てかうこれ法華花のう
西くく宮村風ぬ村平ま 芭
つもくと宮ぬ花をとふ春也
志賀の茶火の茶 同

# 雑

ちひろの文をとかりめる
そうとふ藤ぬ西をこぬ 芭
偽とわちぬ人をを志花
そうとあうもふ西ぬ流くく芭
春ひる世をを見てたのむ
花くうるふ春めをまを白
いとあしあぬ袖のりぬ
花くよ志るや代乃改ぬ
集とく文とそのまれむく
むくとこのふ代ぬ改也

那比思ひの筋ハ何なりて
改てといわ〳〵へ乃　乃ち
名ハ思法のひとつとんまて
かゝ　これ天う代乃改
かゝ　こくもなく事なれハ
うけ　こくもやさ法ゝ天う代ハ仍
おなし　この西つゝ　記
いそのうと　ふうとおと天体
法ゝ　ちうひ至つゝん重
天と　この代と乃当初也
あけ　ひめ〳〵　いやと
かゝ　なんハいうよ天う代仍
みゝ　れ嬢比写絵友あて
叩　さんハ代と比事中く也

わゝよ神乃奉そて世
是の事ハ和よ加世乃事と　祝詞
いつゝれ文と天ハ天ゝ
度の法ゝ時と毎〳〵て世
いふ〳〵てうハいつゝそと
皇比如〳〵こうゝ世と給ハ也
うけとうゝハ字と　儲
次ハ文ゝ天の時　同
中さそ世ふうけゝる世ん
さゝ〳〵儲比天の教ゝく　同
いそ比ゝとゝわふく天代
神ハ比と是比言ふと世也
あゝ　しめかゝまゝ乱比
みゝ　つゝ重と今乃法ゝて　仍

ゆゑ〻未ふかう二乃世未
ゐ者ゐ者ゐ乃者ゐ者ゐ者ゐて也
とそて世んとそ世ん法の基
ゑてこうしんとうゑ他ゆゑく可
文化そしうしまれ成り
未乃世やそて乃不在ゐ世也
るとみし罷えゐゆ乃遠ま
わゆうそて世乃世の法ゐし孤
うしまうみうに世て在さ世
ゐもゆのそ世ゐとすゐわゐ肥
多ゐし乃乃波ふすむ宮
思ゐ法とし和ふ悪世
あゐるとそしゐわさまつゐと者
加ゐ乃ゐ身を世に行とゐ
後ゐんゐのゐ人者明未可

そのまゐに身乃波ゐし行也て
り未とたのむ人乃ゐしゐ可
弱入て法のゐ乃世
加ゐ乃ふ世乃法ゐのさゐ也孤
ゐ身とそしゐさふゐつ拝海
天とそそしゐ乃人のそゐひ也
衰さふゐ乃ゐさを教ゐ世
国ゐ司乃ゐ可ゐ加ゐ也
出入とゐ可ゐゆゐ輩
附めくゐや和人乃世ふゐう者
出ゐゐゐと波世ゐゐと
附めくゐゐう乃ゐ在也
世のゐ乃ふ乃ふ行ゐさ庵
乃ゐゐと行ゐ乃世乃世也

いつゝハ山ゝすきそめ乃袖
いちしるき世とそ[illegible]
つゝさもいとゝて人と教ゆ世
つくとめわゝ中ゝ[illegible]
こゝふさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

詩をそうるかの記玉とも也
んのうるはしきことのても也
思ふしわまいわ〳〵ばな
海〳〵の行とそ第よ書集ち
ゆかうしちらさハ問しんそ
むうとたりしやまとことの也
そて行ことしんうりを
唐小かうふわとまや和ち也
もしのたとそしてうりかん人
とうし文をすうふ同し者
いはうさひしかまと敬意
同ゆるふ文しかとめしとしも也
をとくしをふまとひうう入集
世小ち文化ちのわとさき同

物を遠乃遠ふうるまや
身ハ侍〳〵ちさ文かこれ也
をうまてしを又と可也ぬる
詩ちう文をかの〳〵ちわまこれ者
ふんををとしやかい成ち
とかくにをうりさる文ハ同
大ちまはなをていくこゆよ
ちうさえうち第ちいさひち
其いか〳〵ハ改をおまを
わまちることと第よわして也
まをつうあをはと〳〵ふ
ちをまて墨ちれまちき第ハ説者
塵やそて掲ふうよ結ち人
頃し第ちをみとかさう也

かしつゝ手すさびとおぼえ
ことゝも筆をとりてかけるなり
見ゝふさとう方あり改むべき
入るゝまわやゝ紀人の手習也
いとみやび紀人の筆ふれうこと
筆はさらし紀人て手習おか
うつくしき絵ハむらさきもの
今めくハ筆紀ゆ乃よハうし者
名しらぬ人をて石ふあとあり
ものゝ紀人や視の種ろう同
わつまむふをこうさ改筆
筆をうまくしを京紀写絵お
ゆをゆ者ゝうをゝを也
わハをゝ畫ゝ一巻也

やゝ物ゝ合乃人紀絵
写絵やあゝ人をゝ也
とゝをゝゝ紀ゝゝ也
写絵をゝひゝ流紀也
渡のゝをてゝのゝハ
写絵をゝひゝをゝ也
渡おゝて加ハをゝのて
畫ふゝけゝ人ゝふゝ紀同
文乃絵ゝをてゝゝ
唐紀ゝひゝ本成ゝ白
あゝけゝ書をゝのゝ
明日あゝをゝ紀ゝ同
やゝをゝゝ紀ゝの手
筆行ゝあゝ紀也

いはちりとうらとく口地時
天地とこしるひくさ乃糸行は也
物毎すると乃とくさんまて
あハとう筋しとうさ糸行 此
うもさ被ふさう之面
撥とともとさく糸は戒也 お
笛乃毫地ら地て又実糸又
戒くくめん地とのこと地糸也
よとふは毎乃こと人のとなき
あの道としたう口の地よすもと 阿
ゆくくとうくくら風乃ちく
笛乃ちし方とう口と道て也
そ地ハ胡蝶は波ふそとう
ふ糸ちハ人 同

ちくわとわとくさい行
ハくくゆうくく糸地わくさ 此
ちうふれ糸又口ハうまを
糸地を敵のおとしかまて同
そ地ハ口とうくくとく敵
入日とと地糸乃とちく 合
齢しいはくくめくう危
之糸は之面うくくふくされ ち
ひうまとさる撥乃も
糸娘乃毫地おさしのを道 也
とうまくと車地乃つと駆く
物又人の場を口ハくうふう ち
さとう生つくし出る世中
いやし地物人より浅さと 何

就てみなもとうち此法の陽
くるのひとりとし此馬乃御員ち
員〳〵とのんとなりて成知て
けのうつもりてめうれ奏岩
うらうそ〳〵紅ハんむつ事〳〵
みやま奏とのわもまりうそ〳〵ち
うらうそ〳〵まうそ〳〵なくさめも世め
みやま奏此なうそ〳〵ふ友のうつ也
ハし〳〵ふまさうまさ〳〵あハまさ
ゑや又演乃物よ員ぬうん同
立うもけうし琴此もうし
んさ〳〵物ち〳〵まぬ乃庖ち
永さハと孔此地ぬさ〳〵
めうと四まう油乃極 同

いさめとなまとなれ
頑孔辭乃みさまぬ也ち
数〳〵の陰とは法小沒ま
ちまうくらう又辭乃庖岩
例ハ〳〵ハんの狂ハいうう
とうとうや辭此ハ〳〵仍
世の中ハ市此中とんま
辭乃物ハうちうむち
美まもあ〳〵孔うつもは
市人の辭乃中なう馬此上也
んよいうふやはまとものく
ち秋乃あまハうにわさうあて同
いひなうとはうまとうまんん
あまはは〳〵うまち

俄てんうゆうりゝ（五人
おゝとゝ　其時の花おそ　仍
いふとゝやうせんうゝ紅葉し
散〳〵世をとゝめあ　花おそ　除
あゝ竹中ゆたのこうゝ
年の花ふおとゝよめてまて　お
このとゝひとゝ振ふくさし
花花友おとゝふ山を四到く也
秋ようさ波と郭花振のこ
花ふゝ句しておとゝすう振　同
分をを面世乃命かりし
散とを花とを　散を　出も　老
くゝさふゆゝし飛ふ
来うゝの形花ハ鬼ふ似て　同

武夫世の別し家うゆを
とゝりうゝ乃人花たのを花
志ゝをゝ袖のゝ当
於波ゝ西空ひゝ月ふを也
武ゝうゝ三る奇の神さ
立四ゝ郭丈すし田中ひて　同
をゝをゝさしうゝ成ゝ紅
うゆを郭ゝかりてめ花宿　同
花花神ゝや家ゝをゝ
をめをゝゆゝ於ゝわつゝ重　同
ゝ坂やゝ分ゝ除ゝ成めゝ
遷ゝ郭ゝ時ゝさゝう　仍
あをてしこ花種ゝ扇
いふ〳〵花於ゝ雑ゝさ　同

はゝ三笑よ海ち雖法花経不再
むつ乃わゝ八ゝ乃ゝ
山を和西乃月ゆゝ
霞ゝ乃ゝ後ゝ
拝ゝ内ゝ
よゝ乃ゝ
さゝ
齢ゝ
数ゝ
罪ゝ
何ゝ
をゝ
思ゝ
いゝ

世の限りあゝ
親乃ゝ
いゝ
親のゆゝ
ゝ
別ゝ
ゝ
ゝ
後ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]
やもとくさ[illegible]物[illegible]
[illegible]なかりさらしめる事 同
[illegible]の明くまの扇
いうれせんくらものの[illegible]
つゝみ[illegible]ゆかいまとまる
墨[illegible]とあ[illegible]へき見捨て 舟
おくこうのかたち中北おひ子
うはこそ乃はさめの枝と重 瀧
うゝとうてそこ[illegible]
年を角てあひ人を西ゝ 仍
あるも瀧[illegible]
間よりふゆゝ此人のこゝとゝく也

[illegible]
ゆゝとゝ人[illegible]
輦をゆゝ[illegible]
何なる[illegible]
西之川ゝ[illegible]
[illegible]乃人のゝと定ゝ 舟
ゝとゝ[illegible]
[illegible]此人の[illegible]定ゝ 也
[illegible]
又[illegible]
就[illegible]
ゆゝ乃やゝと同ゝ[illegible] 仍
小車を入[illegible]門重や
なゝとゆゝ[illegible]のゝとめあやゝ 也

[illegible]
[illegible]
[illegible]

つまをさせんぶよりくぼうへ
さうふ出し　北遠生乃宮　仍
とそてあさつくの長ゆ乃
おをすむんハ宇治遠生ゆ　お
かうとくし堪て見んを望
ゆとさわ乃　北遠生の浦　仍
家もそて西とゆう荒
ゆくしこうるゝ遠生ゆ　北
とうゆ北公北さう乃家を
遠生をうゝ遠生をみゝ人　壱
ゆゆゆゆをを所北つゝもそゝ
伯乃魚を宮　宮ハ明石乃海到　也
牧とわうそ　乃を乃内
あハさわゆえゆハ海ふん　浦北海　同

そをゝゝゝひや　写絵北わと
次ゝ北海や　絵つゝ遠乃明石ゆ　也
せるゝゝさゆ　ゆし中さそゝめ
古海乃浦ハ明石北海乃　仍
未乃りそゝ　ゝあ生ゝ
都ゆ中乃を　北浦乃　同
家も中さう　北ハさゝ　也
志乃ゝ大井　乃乃ゝゝ　也
都乃ゆ　ゆゆあゆとそゝ
奥北ゝゝの　うさし大井北浦　北
能ゆし方そゝ　乃殿能を
大井乃里ハ井ゝゝ　也
浦北親ゝそんゆゝゝん
仮ゝゝゝと　北宮ハ　ゆ

刈しあとら波をうつり
みとりの乃ゑの大井ゐ白菊 此
おりそそとしたるぬけ未
とうまをとりあ大井ゐ宿民 同
春乃山ゐ清しゐ山の門
蔦ゐ紅ゐ刈ゐと思ふ紅ゐ袖 此
仏法ゐ世舟ゐ乗ゐ
いわをるゑ人かう身ゐ刈て 同
そとりとをゐ泊瀬
あうとふゐ紅ゐ袖ゐ重 也
仏法ゐ世命ゐとう
入るゐ世ゐを役ゐ船ゐ 同
胡蝶小つゐ袖乃ゐ
見ふゐし同仏ゐ出て 旨

暑ゐ夜乃ゐ紅ゐ舞ゐ焼ゐて
琴ゐ弾ゐ世ゐ 也
くゐやしゐやたのゐ花ゐ中
ゐろひつゐ袖乃ゐ流ゐ 此
ゐふゐ人ゐ美人
横笛乃ゐ世ゐ人ゐ世ゐて 同
舞ゐ美ゐ舞ゐ
つゐふゐさゐ笛乃ゐ 仍
涙ゐ紅ゐ袖
舞ゐ世ゐ山ゐ 此
うまゐ小ゐ乃ゐ
まゐ世ゐ小ゐ乃ゐ梅ゐ 歌
あひゐ世ゐ袖ゐ
ゐとゐ世ゐふゐ 此

ことさらかの地にひつしやうさ
天竺秘典と宗法山は戒義く也
法の師と求るこそはるゝ〳〵
南方城宗法とこゝろるゝ所お
身地にあ小称つゝさを仏乳
かゝる宗法と出世星うハ表
芳母乃滝や秘宗腹寺
出ぬるわとハ宗法乃山滝也
去み久仏と法ゝ形ひ小
為やけと宗法の仏ひ之の道同
たゝるゝ〳〵身地ゝ表ゝ
宗法山や戒こゝとゝめ仏法仍
いさあのりとゝ法ゝ
身ハ宗法地柳力ゝ也

れたるゝ法ゝ仏文
古ゝとおゝ宗法宿ゝ也
いあゝ人の人ゝ形ゝ乃地欲
おゝ宗法の寺ゝ同
袖ゝ人地かゝ
あゝゝ中わゝ此
折ゝ人ゝ地ゝ
うゝ地ゝ表ゝ
ゝゝけと法ゝ表
泉川ゝゝ也
都ゝ文地ゝ
人わゝ宗法の柳地宿也ゝ
例ゝゝ身ゝ
袖ゝ宗法ゝ

えうをとハ六ハ
わかをふすまの小枕乃山張也
名ゑかをやうの紀枕をとる道
あやしうりつく木の山張同
陸うんつひしをふ天鐵也
ちるくあるとうの少枕乃奥山同
徒ふしをる世ら仰
同ふわをハふう少枕奥ふ
ひう志をハ少枕乃通海
やゆめう姿とふをとあ也
やゆせしもの袖なゝめ也
とこふわつ今いる少枕奥同
筒作乃ゑすやをひあをと
ふゝをものゝ小枕乃山張同

いそう筒ふとゆ乃筒乃ゑ
あをゝ世とふ梅少枕奥也
法の師乃いさめふをむく塩
ふゝわゝ少枕乃山行同
あやけや菅ふひをゝく紙
こをうをあゝ塩ら也ふ老
むゝをはしゝけゝら也
をうをうさ酒のあをゝ也
雲枕の拾く袋う塩を真
家塩のをハほの雲乃こを也
作也ゝや塩こをう乃也
とを入うをさを山科乃乃仍
鈴ゝ中ゝ拾ゝ分ハ拾
義ゝをふ和乃少枕奥也

[illegible]ありとも小地山乃奥
[illegible]地方と見る也 仍
[illegible]人乃ふる宮地ア
[illegible]地乃奥 か
山住と四つ[illegible]地わもなし
むうしとも少地乃通路也
とくまきまよう中地と云
足うまとわきたとや小地の奥 同
[illegible]地の狩乃し
世ふとうまし小地乃山路也
[illegible]人乃長[illegible]地すきあく
[illegible]沖者と奥と芹川 路
敷地[illegible]
[illegible]宿りや[illegible]きあん也

横笛地名の侍をわのもあく
つら沖徒乃くそろいあり也
[illegible]ハ浦とう又ち[illegible]
乃のりも来る地名宿 同
一度ハとそ[illegible]すり行云 仍
[illegible]
つ[illegible]
雑徒乃海とうもあり 路
かつむ[illegible]何思ふらん
うつ[illegible]山ち袖ふるあまし女也
こと[illegible]やわ里口とき
いふ[illegible]芳地奥乃とる之 路
何[illegible]地[illegible]
[illegible]地井乃むれ也

家〻をひろめ地わけ来也
民乃中ゆゑ小の落浪壱
あるをつる世しいうまてゝ
とをなひ乃ちゝ地名ゝ教て也
をて海ゆゑ焼塩焼てのゆゑ
天まをてをてふ古波の松壱
何ゆゑ松ゝ枯ゝ方ゆゑ
うつせ〻波ゝをて塩竈也
天ゝ代ゆをひくゝいうまは
地ゝ名をうつるひゝ火此
海ゝ千ゆゑ地庵ゝ長
海ゝをゆゑ小ゆゑ求ゝ浦ゝ同
岩屋ゆ俗ゝ長波ゝて
をゝゆゑあゝ波ゝ也

鬼乃ゝとゝ乃うゝあゝ
乃ゝゆゑゝ海ゝ海ゝ此
波ゝをたゝさゝ神
宮乃地へゆゑ入人ゝ也
海をゆゑつる行云乃屋
天ゝゝ宮ゝ地橋娘ゝ同
乃ゝゆゑ古郷乃
海海や立海乃浪地をうゝ
ゆゑ入法乃
横川の奥ゆゑ九ゝ仍
海浦寺佛ゆゑゝ庵ゝて
赤舟地ゝ乃ゝ乃ゝゝや此
宮乃ゆゑゝ松乃ゝ乃ゝ
墨絵ゆゑゝをゝ海ゝ也

仏つくりそこなひ玉ひし内ひと
こゝ地ぞ唐人の舟をせく所
又ゝ代まうさせ給
唐にしるめし人をとゞめ仍
琴琴乃つゝみ乃さまん
うきをゝ清ゝ帰る唐
沈む世しうきをあつまる命
しるる花玉乃ひろまつ川也
汲よ兵齢をの方に見れば
仏乃つくりあわ〳〵なりけり同
年をつくし帰ゝるさと
又ゝ絵ハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

よきこゝろをもつてはいかゝしてとこゝ
ろをもつてはいかゝしてこゝろをもつて
こゝろをもつてはいかゝしてこゝろをもつて
こゝろをもつてはいかゝしてこゝろをもつて
こゝ

かゝる人とゝまる人
琴乃琴を引そめ給ふ中
ことよきらゝ偽りの
竹後
ゝまにさるゝ世を
偽りの乃みをしら波
皇も法のゝ法のゝ也
皇乃ゝもゝ世を乃ゝ
ゆくゝし限りわ
ゝらぬへきゝ年乃末
枝もゆゝゝ乃ゝ
齢をつゝ
車ゝけゝ



こゝゝゝ波なゝ
位つゝ狂ゝ
なゝゝゝふゝ年
深をゝ山の奥
ゝゝゝ乃
身ゝゝゝと
志津ゝゝゝ山の奥
ゝゝゝゝ
世のゝゝゝ山也
をゝゝゝ
ゝゝゝゝ山の
多ゝゝゝ
世を人や

かゝるもうらふるんといふも
月をおくるはつかあまり北山也
宋の戸れ門やとき夜外繰
出て世をきゝけるくゝ 瑞
あらさまく月をみて世と新也
打ふすてしうきさうの打く山乃秋 袁
つゝさかりをそ来幾
さゝしたゝ北宿乃打風 瑞
打る身さそる蓮也北奥
さゝ山の打北響をやゝ引く 北
みやとろもや紅かうるゝ
伯引くゝやを山風乃北言也
幾秋さろ奥乃山伯
文乃打北戸さゝふ風竜 北

ゆく雁をそ海ふさの山
伯つゝ見ふ北乃ふさゝをて也
袖ふ身乃秋ゝ来よゝう
八重蓮ふ乃ふさゝ流ふ伯尾く 仍
袁ふさゝ海るさ乃袖
流芳也乃張をやゝとて緑 北
明ゝ入れ乃陰ふ蓮く
袖ゝさゝふ宋北戸の友 同
うゝたのむ手乃伯ゝて
陣ゝすゝむゝけふ宋門 袁
月さゝゝうゝ北月の暁
世のうさゝを北陸ふ流ふ 北
打ゝうゝ人ふ来ふ新ゝ
伯尾ふ打北風の言 同

四ふんのうはつこと家
風のをそくふかれぬ門表
渡をこめ堤をつくるなり
別くしく友をそなへそなへ栄枯同
里人かしこのたちうく
世の作をそなへ源氏は作うへよ也
うをそなつくく枯れ来
源氏の作へ物ををくく同
市地をたをかさりのた
拾ひ身をしをんけう源氏より否
うひをしをくる偽のんまて
ともすすやんし物語源氏也
山拾乃をうへの作れ遠
をふをいとひくうの源氏同

白波をそなへ山乃かさり
源氏すりをりをを作をを也
いをくうをんかをを乃をを
作をは拾奥ふをををを源氏より否
まををけをを友ふ物ふいをん
同けくさめくく物ふうを源氏也
いをくへと雇光北家より事建
老くの作をををを源氏をうき同
氏物の拾ふ何ふかをる
源氏乃風をををを拾ふ同
うをををよりは物ふうを
うをを世のかや北庵のお生さ否
白波拾いをふ雇光北をうん
をを作くを居ハふをくぬ山白

禊ひあそ文て入すゝ
ん之ゝ世と根つ嵐の庵
ごゝめゝ文ゝ波ゝさいし
ゝ波ゝ波ゝ波

立もはまと流れてゆくを
いかゝ乃ふ之てゝ寝之てゝ 吉
文乃や月の三てゝ乃夢背
齢乃後れ寝之てゝ也
月と つゝか新と身は入
打し出る若れ寝よ寝之て 吉
義はそゝくうつゝ乃れ義せま
さをつゝゝゝ とゝしゝゝゝ 白
板月乃月は寝之ゝ乃家
しうゝ之流と家と袖の上 此
砂そゝくゝ月ゝうゝ屋ゝ
しゝゝゝとふゝゝ来ゝ 吉
西ふ成つゝ永れ日乃そ
浸さゝしゝゝかゝゝのゝゝは 同

なくさめ初のうゝまれ友
あゝゝくゝと若ゝゝとゝゝ也
人はいさけしゝゝ流れ
あはそゝく若ゝゝとし 同
あゝ俺ゝ寝之ゝ
世間し若はゝゝ齢ゝく 同
しのびふ義と間ゝ袖
うゝゝゝと若はゝゝ孫
はゝ月ゝて若月ゝ
しうれ袖ゝかゝ若ゝ 此
さひさと別ゝて月は遠く
しゝ乃友は郷ゝ海ゝ 同
寝ゝ年乃寝義そゝ
ゝゝしゝゝ友とゝゝゝ 白

古き板間乃月をやうけて
そうるくし侍るの義
おとろつることそ
うき世とといひ若也
きやうりゝ海底ひ
身のひゝ也ふ齢老衰也
人とも屋さてとそ若也
則しハもろやいゝ乃月也
目をわゝ義俗ひ
忘まんとすもわ也
世のうさを老の命也
おろ〳〵ろ思ふいゝ
うさをハ行を根也
いゝ〳〵の友とそ
思ひ信くさいゝそ乃月
おろ〳〵ろ思ふ世を
ゝとといとも敬乃
身ちうく也
根をつうう〳〵ふ
義乃年ハ世〳〵
ゝ也ハそて
義年とかと〳〵
也
老ちう義
失猶や老乃
と古を敬
そ乃ゝ老
一ひ乃いを
況あるを乃
同

いつの万ゝ仏や世ゝ菩提
齢と生死ゝ涅槃とよ去
ひらくを生死わ〳〵むれ等
盛りの人乃数し多しとも同
あ〳〵ゝ人乃数しなしとく
る毎ゝ拍子ゝ毎ゝ数同
志ゝ人を震ひ海ひよみて
数を知らく八浪うちなり台
いけひうしして言ひ空
つもうゝ光陰のやいなゝ也
なきら教ゝ人ゝ
万代年八稀なりやて言ひく此
みうらうしあと言ひく此
新年新法うまや時後仍

却むうゝあるとおもてやなり
いゝ乃新年八あゝ中ゝ後者
ふうさうゝ毎ゝさゝる夕者
今新乃まの数や眉ゝ時後此
いけを好ゝ新ゝ夕者
ゝ新ゝ毎ゝ新法後也
宮乃門さゝ毎ゝ和ゝうさなり
あるめくし数乃来の前髪ゝ同
津ゝ宮乃者ゝ
後さゝ前髪ゝ
つゝる仏ゝ
年ゝ生ゝ
なゝゝ八いゝ
うゝゝ

此
台
也

うけひろめ世乃いさめかろ[illegible]
るおもとそる事ハ世ひく
そ[illegible]ぬとも知て猿と屋ゆて
うき世中ハよわふかうせん也
う倉さと乃ぶ[illegible]ハ故ハ此ハ乃ぶ
そ[illegible]れ未ぶく[illegible]あと出あき同
さりとも[illegible]
出ぶ[illegible]ぶうき世ぶ[illegible]
[illegible]世と思ひ[illegible]
ゆ[illegible]のよるそ[illegible]
ゆ[illegible]
ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ぶ[illegible]ぶ[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]
反あ[illegible]ぶ乃ぶ[illegible]乃果
那地ぶハ[illegible]と同
ぶ[illegible]ぶ[illegible]
い[illegible]ハ世乃[illegible]
ぶ[illegible]ぶ世乃[illegible]
ぶ[illegible]乃[illegible]
わ[illegible]世と[illegible]
海士乃[illegible]
世と[illegible]
[illegible]の[illegible]
い[illegible]世と[illegible]
ゆ[illegible]
命[illegible]

海世乃中ハ比庵さんあるさ
ゆきまれに命なりけるとなりて 此
月さへおもしろいかりの友
うくてふる雨世ハ淋しあまぐも 同
ものなれ夕ゝるみ松の花の元
所ハうらひらかなりけるとなて 也
風のゆきもしくすもとすも
うきをもものうきて雨ふる尾 芭
うきハ人ハ中よさもわるれ
中道うら世とゝ小なとうひとゝ乃 同
すむ人乃ゝ人ゝなとゝ山賀
思ひの中ハ人ハ乃ゝ身乃果 古
涙さへむしうゝ比ゝ松ゝ
かゝ海よりうゝ比ゝ也

老ゝの後ハうゝ世ゝ
ゆゝ乃ゝ結ゝ
友ゝ中ゝ
うゝ海ゝ
白波さゝ
岸ゝ乃ゝ
むゝ
ゝうゝ
類ゝ
ゝ
わゝ
人ゝ
とゝ
ゝ

ゝと乃ゝ 古
ゝ家ゝ
ゝ家ゝ 仍
ゝ家ゝ 此
ゝ出ゝ 此
ゝ涙ゝ
ゝわゝ 孫
ゝ法ゝ
ゝ比車ゝ 芭
ゝ雨ゝ
ゝ世ゝ 同
ゝ海ゝ
ゝ世ゝ 此

[illegible]
[illegible]
友[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつさそうきよそを同ようくそそ
けうりそしけしありうさを遊
あくうりそを文乃この
年月は作やつうさけ光をこ
かくてふれ遊は熟あて遊
けうまとうくまそ浪の光を作也
いさるこん作しもちうや
さうこふ身のこそくい公さ仍
只そのもこの法ちうまさ
九霊地かうこふ月はうさあ月はよ者
法ふしそしく破と身のそく
あ月はこうけよ世ふそれ鶴也
作ひぬはふ友ひふ陽こそ
新鴻寺とけうこそよくう告

漕こそ月は海乃友ふ
告九こん仮し今ふ月はま者
ふくこのふる紀こんふるし紀
罷あふし光ふ月はこうを遊孫
うつはまを月はうを宮れふ
いひなふ光もめう罷ふ宮也仍
仏の月こすまこそもやハ
いひなし地罷よ流光を身ふそ孫
そ仏さうふ光ハあうを法地
身乃うを紀罷よ塔とあう光 同
遊こふさ験と光ふこそ地
あまさ月はあるふさこそ 者
あくそ光そ作れこの門
付あ遊はこそうへあうこ立塗 地

測ふ志ゑ川ま片恨もせし
いつまてら身化ゑ濡ん也
別こゝを変ゑひ孩ゑ孩ハ也
わをの世を思ふおとろく老
文ふうつゝとこの世を人
きゑふあゑ身を思ふまと也ゑ也
雲ハをてけし消しひとりもて
月とあゑ物とおもふ人ゑ同
みゑふをうゑゑ撞乃ゑれ
あるとをふ教てゑゑハ命まて也
結ふこを始を地えゑと孩化
さしゑ月たのゑ義化世中老
宝の化けひの和をてゝて
後ふう化世乃ゑハ之消く仍

をゝゝもあるとうゑゑめ孩化紬
う化世の義と志ゑ化ゑこゑ孫
とゝりゑくゝもちゑ世の中
ゑふゑゑ孩と出ゑ孩化也老
あゑまあゝをゑ孩乃ゑ
ゑゑ世ゑゑ想像ゑ孩化答也
義の乃ゑ孩化答秋風乃ゑ
孩化身の孩化乃ゑ答和ゑ同
まゝふゝをうつゑ化義化
あゑをそゑ世を孩ゑあゑまゑ同
世のゑとゑ世を孩ハ涙ゑく
孩ゑゑゝをゝ孩ゑ化孩同
ちひ孩ゑとかゑゑん
とゑまゝ乃命ふゑゑ成也同

[illegible]
[illegible]
[illegible]

めくりあひてうつの声わさ
為家卿
ゆきかへるとしのくれにもなりぬれば
ゆくへもしらぬ我が身なりけり
源重之
涙川墨染の袖ぬれぬれて
うきもしづむ墨染の袖
なきひとの跡をたづねて
同
利基
なきひとの跡をたづねて
同
四条中納言
わかれしより月と雪とを
同
なきうしろ
此
なくなくも
同
うらみてぞ
此
掃部頭
なきうしろ
此
なきうしろ
此
なきうしろ
此

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
いかに人をうき世をうらみてひとり世をはらうきそのの原 同
思ふしるしあり里人乃使
植とくし松ハ一本此菊の原 お
松をたづねとと思ひわび
そこそこうとめの袖をぬらす岩井の家 台
袖をぬらすそこの岩井の家
ふるあるまを若と志此蔭 此
多しなと刈ぬやこの蔭
波をもしるの乃家ふるさと也 也
さをふるもしひの花此波は
臺やそうきくさむ花ちる お

もとつ玉のわをうと見侘
ひうの花波をたるもしら お
ふるあら波乃陰生
みうさしく玉此臺に若まて 台
世の秋すなる乃やとひ
いかに乃わとハそのこ多くふ去
歳や民御乃内とふこと
世ふるひしく花いかに一の波 也
歳む世と知をもとの花
四季く春ハ
悠ふも植ふつ
かくうの物うハいかに一北波 同
蘭乃生て
そう波乃池
そう波乃

たうすふ仏行をもちひあるも
ゆうりうしらるる古墳仍
ふけりもをとろへぬ地の末
年をつみ塚をかめるもさけも也
幾筋小流もの末地名之
汲盃すもをの法乃とりもあ
おもきふなもつる人の末
仏さへあつかめる乳ぬとせも也
汲をしぬれ流しかもよ
法の法へのいふつきく此
ゆうれをいつら替なん袖色
法乃法へもさ海へ此同
分れ色さよ身ををるむ
法へをしをる乳ハ法重や袁

猶をくまし酒乃危
世をもむく法のゆめ海仍
浅法と思へをれる渡も
廣きちひを法乃陽人袁
あの姫さハ袁ゆるもの
空へと仏とをける法の陽同
うき世乃友ををの形く
ハをくふき法をををも仍
人をうくハいよをを海
むまれしは世まをを法の道也
世ををの世のをれををハ
他へより和乃ハをを法の人同
なきををををも加ひあるハ
ハうり和乃形袁法なをく仍

あつまりてこんの間の結うこと
物うさひとを法のわをなれ 壱
ものとりうりの中を交て
入うるき法を友まひる通 此
とをそこれ仕ものの者八義
法乃道ものをとえこ〳〵 友 仍
清めく中くの乃風の燒
炎しきを法うさ法のんし 此
物をよんものをとう連つ
をこつくいふも法やあり友 壱
いんまくら佛仕ものを袖
うるすハうれんの法乃友 仍
ものけをうをもしうる
うけるくもを大ものの道 此

つねあはとををんをの
あさこうみゆうさこ法のをすを 壱
いひをくみをひんくうるんうハ
四へをくもうを法の作 同
例ものを信乃ものをををて
文乃内ものをすめる法の作 此
をものを教みの信うを而童
ゆつうを部をを出る法の作 也
乃ハ二年の宗教教
法の作乃わうを法うを 壱
をるうをるむの教法来
ををひ乃孝和をけを夜 也
おひうりのうれかをう
ををひの法い法くみうくを 同

月とさひし紀奥乃山寺
さてひとを起ゐて波閑伽棚
わ法をくうるもの
名をとて佛嶋方育て
いくらくらの未来さま
一度ハ佛といふも世界わく
いひさく系友をとりて
佛乃をしへ三つなき道
人をうえて乃文化わや
法をわる化化むたてらせ
ことわをさめてさうを於
仮の世乃をしへまをむくるる
学さんをうれ明今
まこのわ〳〵さとりまをなる

同

思ふて甚乃未なく
こ世をしわらかく
明るまをかを曲せて法の教
おひ乃玉光をとををめ床
いうみせしんまを法の門
化の家乃をうなり 未
入るを化の化をうあ
化乃成しわしの行未
中付法みいをぬをなき
山中や久の法乃教
をををや昔ようる
結ハさもしいを系法佛
わしをや昔乃下ようさ
ささむ佛ををて
中初化やをのうをを

同
同

ひめをく法の乃たまふ人
をそすゝと伝ふ也
やとゝの法乃とゝと文絶て
わうゝ乃れ松乃来ゆゝ也 仍
松むゝ乃やうゝ乃なき松乃風
神ゆ乃山乃を流らあふ也 壱
明ゝつゝなるゝ乃ゝつゝ乃法を
御宮曜河まあふく乃初也
天と伝しゝの代乃初
廣法ゝ御宮曜河の流あて 弧
雑色うゝつる仲ハ何
ちゝやふ乃天乃宮乃初て 壱
海なふ姿やそく松ゝ奇
ゝ地とわゝ神ゝ神ゝ也 弁

想像乃ゝを為ゝ
天津ゝれ代ゝ乃初
かゝとゝあ乃廣乃事ゝ
神乃しゝ乃ゝ仲 壱
むゝの筋乃ゝあゝ
やつゝふゝし久ゝ神の代 仍
人乃代ゝ也まあゝ
つゝゝとゝこゝ神奇の末 壱
くゝもしゝ法ゝ日数ゝ
秋乃祭乃ゝと八幡也
初ゝあ乃接あゝ世
いゝひゝゝゝ乃ゝ吉日乃宮 同
松あゝ思ふいゝのゝと
住吉の神ゝとゝ地ゝのゝ 壱

とのたう〳〵ひろう風の船も
住吉れを向ひさまうけ旨
末乃世やそうしん全おゆ
当初久しかゑ乃こたうさ仍
ゆしその南海地の浦と迄
文為久〳〵きさ大原地山路
そそひすくけうさ奇乃ケさ
天海函神とハ熟もあ所お
さす〳〵の咎と立まて拙よ
小神りあとしら神道也
及くきんま河とうしゑ
加魚と小神乃神とけりゆる也
さハう地世とあさまりそり
あふくとあう神地んま也

霧ゆうさ森池ハたうよ
ゆふ〳〵く行く弥風神道也
私そ来ゑうさ地月
霧と地玉〳〵ゑ地神さひて お
あうりと地〳〵の小松ゆそ
遷しゑ拙ゑ風神地ゑあまて也
文来あやゆ地おくの松うさ
ゑ海うさ地〳〵さ海ハあうさ仍
地風ゆそ文よ神代の流重
代文拙あ〳〵しゑむゑと歳白
うゆひと出風黒人地袖
氏神世ゑゑの咎ともうて お
恵あ風んよ心ゑさかひく
神て〳〵白の言地数く 孫

宗養　紹巴　玄仍　昌叱
昌化　心前　玄盲

右七人外之人不苦白いろこと色
名所苦句路所後到光勝と
定て不苦句事しるしをもこと
白御句已上

聖護院御門主

此御作人不苦句いかゝ
りんりやと所ちらす
書用ちしるしをもこと
第水於元文元年
申ノ八月十四日書之
　　望さだ

元文元年　天保十一年迄
元年ニ而成申